

たんぼぼ

ニュース

みなさんの感想、ご意見をお寄せください
連絡先
577-4169
No601
2011年
7月24日
(部内資料)

絵手紙



東三丁目 沖田 有美

街の声

●赤旗「日曜版」を読みはじめました。政治からスポーツ・文化まで幅広い記事にびっくり！原発の問題でも、内容が鋭い！これまで食わず嫌いだっと思った。800円は安い。(東2丁目、女性)

●6月議会、尾張さんの一般質問を傍聴に行きました。コミバスの件で、市長の答弁に対して核心をついた切り返しをして、議論が深まった。署名集めにがんばった私には嬉しかった。(東3丁目、70代、女性)

●国保料の値上げが計画されていると聞いて、ケシカラン、とは思わなかった。道路にお金をかけるのではなく、値上げをやめてほしい。(東3丁目、60代、男性)

●原発問題に関しては、政府や大手マスコミの言っていることは信用できない。赤旗「日刊紙」は光っている。(70代、男性)

原発ゼロの駅頭宣伝、署名

いまだ収束のめどがたたない原発事故。太陽光、水力、風力、地熱：豊かな自然をもつ日本。自然エネルギーの開発に本気でとりくめば、原発の40倍の発電能力があると政府も試算しています。自然エネルギーへの転換に本格的に動きだしたドイツは、2022年までにすべての原発停止をきめました。スイスも2034年には原発から撤退する計画です。日本でできない道理はありません。

九電が原発再開「やらせ」メール

「やらせ」メールは、「赤旗」日刊紙(2日付)が子会社関係者からの告発にもとづいてスクープ。6日の衆院予算委員会で、日本共産党の笠井亮議員が追及すると、夜になって緊急会見した九電の真部利恵社長が「やらせ」メールを認めました。内容は、一般視聴者を装って「発電再開容認」のメールを国が開いた佐賀県民への「説明番組」に送らせるもの。その後の調査で、九電の原子力担当副社長(当時)の指示にもとづく組織ぐるみの行為だったことが次第に判明しつつあります。

●子どもたちの豊かで健やかな成長発達について
・学童保育の育成料や延長については、市民の意見をしっかりと聞いて行うよう求めました。
・放射能測定については、都の測定器貸与によって測定していくこと、また、学童保育所などの地震速報機については、設置の検討をするという答弁を得ました。

●市民の声を生かしたまちづくりについて
・国立市の文化遺産ともいえるロータリー機能についての市長の見解を問いました。市長は、ロータリーについては長所がある点を認めました。ロータリーをなくすることは、市民のアンケートでも8割が反対していた。

●災害時に支援が必要な市民への対策について
・しようがい者、一人暮らしの高齢者の実態把握と避難・連絡体制の確立について、これまで実態把握もされず、体制も作られていなかったが、今後地域内で自主防災組織で要支援者を把握していくモデル事業をするとの回答を得ました。それを進めるためにも、行政が責任もって要支援者を把握し、地域の中での要となるような制度にしていく、つまり公助の視点の大切さも求めました。
・多摩障がい者スポーツセンターを要支援者の避難所として位置づけるための協定を東京都と早急に結ぶよう市長に問い、市長は了解しました。



大型道路づくりより、いのちとくらしを (モノよりいのち)

6月議会、一般質問を終えて 尾張みや子

議員となって初めての質問は、「憲法が響くくらし」をめざし、地方自治体の役割である住民の福祉、つまり市民のいのちと暮らしを守るものという立場から大きく3つの質問をしました。

原発からのすみやかな撤退

東日本大震災 被災者の救援・復興に全力を

日本共産党演説会

日時 7月31日(日)
午後6時15分開場・6時30分開会
場所 JR西国分寺駅南口下車・徒歩2分
国分寺市立いずみホール(入場無料)
お話し 日本共産党参議院議員
田村智子 さん
ほかに、現地でボランティアに参加した市民の方々がお話します
主催/日本共産党北多摩中部地区委員会



俳句 東一丁目 孤舟

極暑に堪えて三句
冷房を控えてしばし昼の夢
節電に蚊帳の白ひのなつかしや
水買ひて極暑の中を帰りけり

いま、話題の本
政治評論家の岩見隆夫氏が、「なにしろわかりやすい」「原子力への理解を深めるためにも、不破講義の一読をおすすめしたい」と推薦。



署名を求める署名を訴える尾張みや子議員